

■ムサシ 学園陵辱

一度は妖魔の道に手を染めた女剣士ムサシ。
ユイに敗北し、更生した彼女は再び自分の学園に通っていた。

(電車に乗るのは久々だな……っ！)

大人しく妖魔の力を使わず電車通学していた時、
ムサシはスカート越しに尻を触れられる。——俗にいう痴漢だ。

「……おい、お前……っ?! や、やめろ♥ お……っ♥♥」

強気な彼女が大人しくするはずもない。すぐさま痴漢を捕まえようとするが、なんと痴漢は淫気を放出。ムサシを強制発情させる。

「やめろと♥ 言って♥ お♥ おほおほ……っ♥♥」

元妖魔であるがゆえに淫気に侵されやすい体質のムサシ。簡単に発情させられ、尻愛撫のみで軽くイカされてしまう……

(まさかこんな目に遭うとは♥ こ、これからは気を付けねば……♥ 毎日イカされるなど御免だ……♥)

◆

無事に学園についたムサシ。だが妖魔の道を進んでいた分だけ単位が足りず、自分より年下の男子——後輩たちと共に学ぶことになった。

【へえムサシさんっていうんだ】

【よろしくねー♪】

挨拶する男子たちだが、その眼は性欲が宿っていた。
痴漢によって浴びせられた淫気。それがムサシを通して男子たちにも侵蝕しているのだ。

【じゃあムサシさん、早速ボクラと……】

——保健と家庭科と社会科の勉強しよっか♪

—————

—————

「や、やめろお前ら♥ おひ♥ やめ♥ つほ♥♥ ほおおおおおおおおおおつ♥♥」

……保健と家庭科と社会科。即ち、女体の仕組み、女の服飾、セクハラについての勉強であった。

セーラー服を着たままセクハラされ、下衆な顔でこれがセクハラに相当するか、
つまり被害者側のムサシが嫌だと感じているかどうかを尋ねてくる。

【どうムサシさん? イヤ?】

「いっ♥ 嫌に決まっているだろうっ♥」

【その割に気持ち良くなりすぎじゃない?】

【ねえ自分でもオナニーしてよ】

【勉強のためだからさー】

「お前ら♥ んあへっ♥♥ いい加減にいいっ♥♥」

と、そこでチャイムが鳴る。セクハラは中断し、体育の授業に移行する。

「……な、なんだこれは……」

用意された体操服はブルマであった。
しかもサイズが一般用であり、胸も尻も特大サイズのムサシには全く合っていない。

(き……キツイ……♥)

【お尻のお肉ハミ出てるよ、入れてあげるね】

「や、やめろっ! 余計なことをしなくて……んひいいっ♥♥」

サイズが小さいためにハミ尻していたらしく、そこを“親切的な”男子が修正してくれる。
おかげで授業が始まる前にまた軽い絶頂を味わうことになった。

(このままではマズい♥ 学園生活を送るだけでセクハラ地獄ではないかっ♥)

警戒するムサシ。しかし妖魔の力が使えないムサシでは、後輩と言えど大勢の男子に囲まれては多勢に無勢だ。
今度は身体測定と称し、異性にも関わらず男子がムサシの測定をするらしい。

「お前ら、どこまでやれば気が済むんだ……やめろ、脱がすなあ!」

測定のために脱がされそうになるが、爆乳が引っかかってうまく脱がせない男子。

【ここの脂肪が溜まり過ぎだよ。マッサージで痩せさせてあげるね♪】

「やめろっ! 何がマッサージだ、いい加減に……おほおっ♥♥ 乳首いいいいっ♥♥」

淫気に侵されているとはいえ、年下の性戯に容易くイカされる。更に男子は乳首を責めながら、器用にメジャーを乳首に引っ掛けてバストを測る。
【うわっデカっ！ こんな爆乳なのに感度もいいとか根っからの淫乱ですねムサシさん】

「黙れ♥ あひいっ♥♥ 尻っ♥♥ 触るなあああっ♥♥」

更にヒップを測るためという名目で尻を愛撫される。

嫌でたまらなくなるが、学園復帰に助力してくれたユイとヤエのために懸命にセクハラを耐え抜く。

（私は更生したんだ♥ そしてこいつらを更生させるっ♥ そのためにも、この程度で屈しては……あひいっ♥♥）

セクハラを乗り越え、ようやく本格的な体育の授業が開始。

しかし、内容はレスリング。……つまり、寝技と称してムサシにセクハラしようということだ。

（だが、格闘では負けん！ ……なっ?!）

多少イカされた程度では男子には負けないムサシ。だが対戦中、見学している者が外野から攻撃。

卑怯な手で劣勢に陥り、後輩相手に組み伏せられてしまう。後輩は絞め技と称し、爆乳に顔を押し付けつつ愛撫してくる。

【ムサシさんゲット〜♪】

「お、お前たちっ！ そのような真似をして恥ずかしくないのかっ！」

【常にハミパン ハミ尻で爆乳ぶるんぶるんさせてるムサシさんよりは恥ずかしくないかな？ ていうかもういいよねムサシ先輩？】

「何がだっ?!」

【そりゃ決まってるじゃん。クラスの男子全員でムサシ先輩をハメ倒すってことだよ】

「……な……………」

いつの間にか後輩たちに囲まれていたムサシ。複数に押さえつけられ、ブルマもパンツもズラされて秘部が露わになる。

【じゃあここからは保健と科学の実験も兼ねま〜す♪ テーマは何発中出しすれば孕むのか……はい一発目ーっ♪】

「お前ら、本気で……！ やめ……」

ずぼおっ♥

「んほおおおおおおおおっ♥♥」

力で劣っているはずの後輩男子に、卑劣な手で犯される。屈辱的な状況でありながら、淫気の影響でムサシの肉体はあっさりと達した。

（こんな卑怯な奴等に♥ こんな格好で♥ 感じるなどおっ♥）

【ムサシ先輩、もうイッてる？ 締め付けすぎなんだけど……そんなに中出し欲しいならもう出すねっ！】

「やめろっ♥ 私がイクわけがないだろうっ♥ やめろっ♥ 今すぐ抜けえええっ♥♥」

体験版はここまでです。続きは製品版で！